

# 2007年3月期 第1四半期 決算説明会



2006年8月1日

大正製薬株式会社

副社長 大平 明

# 当第1四半期：業績の概要



	05/1Q	06/1Q	前年比増減	
	(億円)	(億円)	(億円)	(%)
売上高	575	546	▲29	▲5%
セルフメディケーション	347	332	▲16	▲4%
医薬	227	214	▲13	▲6%
営業利益	72	58	▲14	▲19%
経常利益	82	68	▲13	▲16%
当期純利益	42	41	▲2	▲5%

# 当第1四半期の概況



- 減収減益：期初見込みを下回る
  - － 今年4月にセルフメディケーション事業の営業体制を変更、新体制へ移行の影響が長引いた（特にドリンク・チェーン営業）
  - － 天候要因により、リポビタンシリーズの売上高が未達となった
  - － 医療用医薬品はクラリスが健闘、大正富山の売上を牽引した  
（後発品発売を控えてプロモーションを強化、ドライシロップ製剤改良品の発売も寄与）

# 国内医薬品市場の動向



## セルフメディケーション事業

- 06年度第1四半期のOTC薬市場は前年同期比▲3%
  - 主要カテゴリーの大半がマイナス成長にとどまる
  - 夏風邪の流行で総合感冒薬が対前年同期比プラス
  - 花粉症関連は前年の反動で大幅減少
- 特定保健用食品など周辺領域は成長続く  
メタボリックシンドロームへの注目が高まっている

## 医薬事業

- 医療用医薬品市場全体は薬価改定があったにもかかわらず、ほぼ横ばい
- 抗菌薬市場は4%減 (IMSデータ薬価ベース)

# 売上高増減の要因



	前年同期比	
リポビタンシリーズ	▲16億円	天候不順による飲料の不振、営業体制変更の影響
パブロンシリーズ	+3億円	前年の花粉症の反動あるが、夏風邪で総合感冒薬が好調
リアップシリーズ	▲3億円	女性用のプロモーションに注力
OTCその他	▲3億円	集中と選択を進める、コーラックなど堅調
リビタシリーズ	+1億円	計画通り
大正富山	▲5億円	クラリス +6億円
ロイヤルティ	▲9億円	クラリスロマイシン米国特許切れ



# 営業利益増減の要因

	前年比 (億円)
売上高増減	▲29
セルフメディケーション	▲16
医薬	▲13
売上原価	▲7
販管費	▲7
営業利益	▲14

原価率31.0%→31.4%  
SMG売上高↓  
（ドリンク剤など）  
ロイヤルティ↓  
クラリス売上高↑

コストは計画通り  
広告宣伝費 ▲9億円  
研究開発費 +3億円  
販促費 横ばい



# 中間ならびに通期業績修正

- 売上高:セルフメディケーション事業の未達分を修正
  - － セルフメディケーション事業:リポビタンシリーズ、パブロンなどを中心に中間売上予想を修正
  - － 医薬事業:クラリスを引き上げるが、トータルでは期初計画通り
- 利益:売上未達と第2四半期の不動産売却(連結子会社)を反映
  - － 販管費は期初計画通り

	中間修正	通期修正	
<セルフメディケーション>			
パブロンシリーズ	+7億円	+10億円	総合感冒薬引き上げ
リポビタンシリーズ	▲22億円	▲28億円	1Qのトレンドを反映
<医薬事業>			
大正富山	据え置き	据え置き	クラリスは+8億円
医薬中間製品等	+2億円	据え置き	下期分が一部前倒し

# 中間連結業績予想



	中間期新 (億円)	前年比		中間期旧 (億円)	修正 (億円)
		(億円)	%		
売上高	1,295	▲15	▲4%	1,310	▲15
セルフメディケーション	852	▲17	▲2%	869	▲17
医薬	443	▲31	▲7%	441	+2
営業利益	205	▲51	▲20%	210	▲5
経常利益	220	▲43	▲16%	225	▲5
当期純利益	155	▲1	▲0%	135	+20
(参考)					
大正富山売上高	390	▲13	▲3%	390	0



# 通期連結業績予想



	通期新 (億円)	前年比		通期旧 (億円)	修正 (億円)
		(億円)	%		
売上高	2,640	▲74	▲3%	2,660	▲20
セルフメディケーション	1,734	▲14	▲1%	1,754	▲20
医薬	906	▲60	▲6%	906	0
営業利益	405	▲59	▲13%	415	▲10
経常利益	445	▲52	▲11%	455	▲10
当期純利益	290	▲69	▲19%	275	+15
(参考)					
大正富山売上高	800	▲27	▲3%	800	0

# セルフメディケーション：新製品



- 第1四半期：大きな新製品寄与はなかった
- 一部、承認の遅れがあるものの、ほぼ予定通りの進捗
- 大型チェーン等の販売スケジュールに対応した、上市スケジュールに変更

<p>&lt;第1四半期&gt;</p> <p>ナロンエースプラス                  デントウェルIII薬用VC                  ナリッシュBBドリンク(通販)</p>	<p>&lt;第3四半期&gt;</p> <p>リビタ(CoQ10製品)                  リポビタンシリーズ                  ゼナシリーズ                  パブロンシリーズ</p> <p style="text-align: right;">など</p>
<p>&lt;第2四半期&gt;</p> <p>リポビタンDマクシオ(CVS)                  パブロンシリーズ                  ヴイックス</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>&lt;第4四半期&gt;</p> <p>リビタ(減塩習慣しょうゆ、                  ナチュラルケアドリンク)                  リポビタンシリーズ</p> <p style="text-align: right;">など</p>

# 研究開発



- **パイプラインの状況**
  - 自社オリジナル品の開発状況は計画通りの進展（5月発表時点と変更なし）
  - **T-3811**（ニュータイプのキノロン系抗菌薬）  
富山化学工業が2006年5月に申請
  - 臨床段階にある新薬の導入活動を積極的に進めている

# 新薬パイプライン



パイプライン（2006年7月31日現在）

開発段階	製品名・開発コード	剤形	薬効・適応症	開発形態	オリジン	備考
申請中	T-3811	経口	ニュータイプ <sup>®</sup> のキノロン系合成抗菌剤	富山化学共同	富山化学	
	クラリス	経口	ラベプラゾール、アモキシシリンとの3剤併用による ヘリコバクター・ピロリ除菌	エーザイ、 アボットジャパン他共同	大正製薬	用法・用量変更
フェーズ2	NT-702 (海外:NM-702)	経口	閉塞性動脈硬化症、腰部脊柱管狭窄症に伴う 間歇性跛行 (閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行)	日産化学共同	日産化学	
	NT-702	経口	気管支喘息	日産化学共同	日産化学	
	TS-033	経口	1&2型糖尿病	自社	大正製薬	海外P2
	TS-022	外用	アトピー性皮膚炎	自社	大正製薬	
	パルクス	注射	腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行	自社	大正製薬/三菱ウェルファーマ	適応追加
フェーズ1	TS-021	経口	2型糖尿病	自社	大正製薬	海外:導出 (イーライ・リリー社)
	TS-041	経口	うつ病・不安症	ヤンセン共同	大正製薬	海外
	TS-011	注射	脳梗塞急性期	自社	大正製薬	海外